

万座

標高1800mの万座温泉は、マイカーで乗り入れできる大型宿泊施設がある温泉郷としては日本最高所に位置する。人気の温泉入浴や原生林の散策の他、上信越高原観光周遊の中継地として重要な位置にある。



万座の天然林

神秘につつまれた万座

かつて白根山と浦倉山の間にある万座山とその裾野一帯を万座といった。山に産するものは何一つ採っても山神の祟りがあると言われ、江戸時代中期からの硫黄採掘事業に始まり、戦後の拡大造林、大型宿泊施設・スキー場開発などのリゾート産業の発展により開発された。しかし国立公園指定のほか交通の不便もあり、本格的な開発の手からは逃れ、西吾妻地区では亜高山帯特有の原生林を廣大に残す唯一の地域となっている。ミツガシワの群落があり高山トンボが舞う弁天池、熊池湖沼群周辺のミズナラ・ダケカンバ巨木林など、未開・未整備の自然資源は多いが、この手付かずの自然がそこいらにごろんと転がっている姿こそが万座の魅力である。俗化しない静かな森の匂いの中、深山の靈氣にうたれながらの入浴が心地よい。今も昔も万座は神秘につつまれた深山幽玄の高山温泉郷である。

豊富な温泉成分と名湯めぐり

古来胃腸病、呼吸器疾患に効く湯として名高い万座の湯は、近年糖尿病改善の湯として注目を浴びている。万座温泉の温泉含有成分は二七種類といわれ、一温泉郷としては群を抜く成分数の多さである。また自噴・高温・乳白色・掛け流しの湯は、いかにも本物らしい温泉として人気がある。地質調査総合センター（産総研）発行の「草津白根火山地質図」によると、万座温泉一帯は草津白根山が成長発達する以前の新第三紀の数種の溶岩で覆われており、時代も深さも異なるいくつかの断層の走る複雑な地下構造をしているため、温泉水の起源や湧出機構、つまり含有成分が複雑になっているのだという。万座ではこの「岩石のスープ」のような濃厚複雑な温泉を、各宿泊施設が趣向を凝らした眺望自慢のお風呂で湯客をもてなしている。時間があれば「温泉手形」を購入し、数々の難病を癒して

きた実力ある名湯・万座のお風呂めぐりを楽しみたい。

周辺の遊歩道

●本白根山探勝歩道

万座温泉の玄関口、空吹のある万座バスターミナルから本白根山に登り歩道最高地点、空釜を経て弓池駐車場に出る標高差約340m、150



分のコース。万座からはしばらくの間、長い登りになるが、針葉樹大径木や根上りの木、ヒカリゴケなどを観賞しながら、亜高山帯針葉樹林特有の、鬱蒼とした深い森の気配を味わいたい。硫化水素ガスの発生している地点を過ぎるとまもなくハイマツ群落のある山頂。おしゃべりなホシガラスたちが出迎えてくれる。遊歩道最高地点付近で本白根火砕丘とコマクサ大群落、そして浅間山の雄大な眺めを堪能した後は、弓池駐車場まで下って路線バスを利用し万座バスターミナルに帰ってくるのが良い。もちろん山頂から折り返すことも可能だが長い下りは膝を痛めることもあるので注意したい。

ホシガラス



ら折り返すことも可能だが長い下りは膝を痛めることもあるので注意したい。



●熊四郎山遊歩道

日進館奥の薬師堂から万座温泉象徴の山・熊四郎山の参道を登る。弥生式土器出土の岩窟には大山祇神と稲荷様が一体となった稲綱宮がある。更に上部には展望台があり、ここから見るすり鉢状の奥万座川渓谷と万座温泉、四阿山の眺めは素晴らしい。帰りは朝日山ゲレンデを通り、群馬県最大のゴヨウマツと対面したい。そのまま湯畑へ出てくる周遊コースで約50分。歩き足りない人は奥万座川沿いに山田峠方面に登ると、地元でぼうず山と呼ばれるピーク付近まで行くことができる。ぼうず山では熊四郎山、万座山へと続く分水嶺の稜線が凸凹して面白く。

●かたらいの森

万座プリンスホテルの北西にある牛池を中心とした散策コース。40分程で一周できるコースにはシンボリックな形の根上がりコメツガ大径木、湿原ではウメバチソウやコバイケイ、マルバタケブキなどの植物、池のほとりには東屋もあり、小規模ながらも見どころ豊富で、万座の湯客の憩いの森となっている。牛池と万座山の間は急崖となっていることから、この池も太古に発生した土砂崩れによってできたものであり、湿原を経て森に戻っていくのであろう。森の変遷に思いを馳せながら、東屋でおにぎりを食べるのもいい。

カラマツ天然母樹林

万座ハイウエーを車で上つてくると、万座温泉に着く5キロ程手前に、ワタスゲ群落（6月中〜下旬）のある弦ヶ池がある。この隣、本白根沢の北側一帯が林野庁吾妻森林管理署の主導により2008年冬季からスノーシューコースとして運用が始まったカラマツ天然母樹林だ（万座天然カラマツ植物群落保護林）に指定（同年4月1日）。この母樹林で採取した種から育てたカラマツが、吾妻郡全域はおろか海外にまで渡った。昭和37年にはドイツで良好に生育しているカラマツの母樹を見にシヨハー博士が来日し、母樹に手をかけ感激の対面を果たしてい

る。一帯は傾斜も緩やかで、記念撮影にピッタリの仁王カラマツの他、幹周4mを超す国内最大級の草薺カラマツなど、スキー&スノーボードに飽きた人にもこれからスノーシューを始める人にも絶好のコースだ。硫化水素ガスの溜まりやすい沢に入らないように講習を受けた案内人が付添いの下、万座温泉観光協会に届出を出せば入山できる。



カラマツ巨木を訪ねる



熊四郎山展望台より



ぼうず山と分水嶺稜線



牛池



根上がりの木

毛無峠

万座からマイカーで牧・干俣線を須坂方面へ10分、大前・須坂線を左折しさらに10分程進むと、知る人ぞ知る絶景ポイント、毛無峠（1,827m）に出る。風衝地のため森林が成立できず、矮小低木に覆われており、まるで標高2,500mの高山帯のような景観が広がっている（偽高山帯）。風に浸食されたという地形も印象的で、そこにそびえるのは標高1,999mの破風岳。約40分の登山道を登って着く山頂の絶壁は見ごたえあり。このような風勝地にマイカーで手軽に行ける場所はなかなかない。

